網走桂陽高校　図書だより　2021/02/15 発行　　文責：川口修平

ほんよも

No.010

図書室にあるマンガを紹介します！

学年末考査が終了し、今年度の登校日も残り少なくなってきました。2、3月は午前授業や休みの日が多く、みなさんは比較的時間があると思います。そういう時こそぜひ図書室へ。時間がある時といえば、マンガの一気読み。最近は勉強になるマンガも多く、あなどれません。図書室にある、もしくはこれから入荷する予定のマンガを何冊か紹介します。

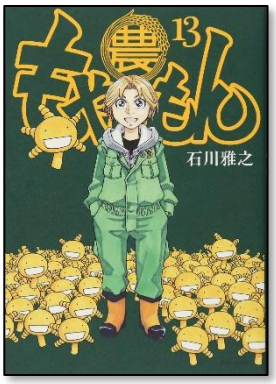
『しまなみ誰そ彼』
LGBT の人たちの苦悩を描いています。胸が締めつけられます。

『はじめアルゴリズム』
数学の天才少年が主人公。数学に興味がわく。そしてとても笑えます。

『陰陽師』
平安時代に実在した陰陽師、安倍晴明を描く。絵が流麗で美しい。

『ＪＩＮ～仁～』
現代の脳外科医が江戸時代にタイムスリップ！ドラマ化もされました。

『め組の大吾』
新米消防士の奮闘を描いた作品。消防を進路に考えている人、ぜひ。



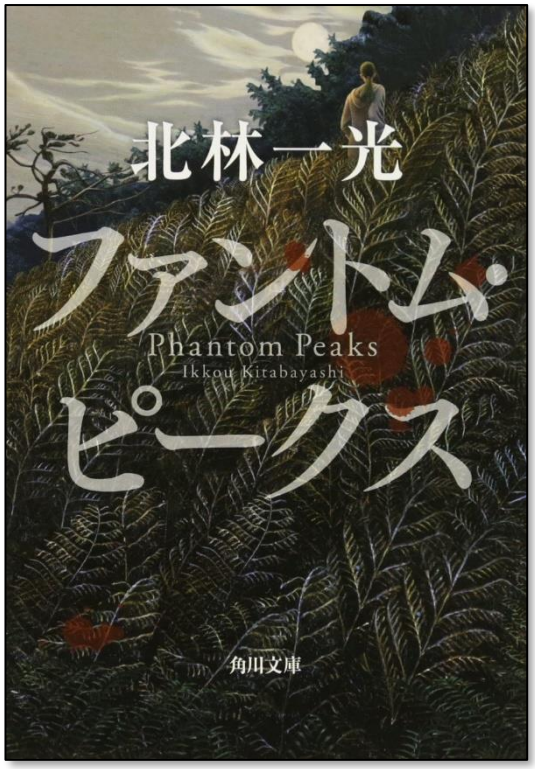
『もやしもん』
「菌が見える」という特殊能力を持つ主人公のお話。菌の勉強になる！

『透明なゆりかご』
看護学科の高３が産婦人科の見習い看護師に。看護希望者必読！

『動物のお医者さん』
北大獣医学部の学生、教授たちの日常を描きます。動物好きはぜひ。

～長野の山に潜むもの～
『ファントム・ピークス』（北林一光）

内容・あらすじ



舞台は長野県安曇野。主人公・三井周平の妻が山で行方不明に。半年後、遠く離れた場所で妻の頭蓋骨が発見されます。三井は悲しみに暮れながらも、用心深かった妻に一体何があったのかと疑問を抱きます。数週間後、沢で写真を撮っていた女子大生が行方不明に。捜索を行っていたまさにその時、今度は遊びに来ていた母親と幼い娘が行方不明になったと通報が。その後、娘だけが発見されましたが、強い精神的ショックを受けたようで、放心状態で一言も口を利けない状態……。相次ぐ異常事態に、地元の人々は「この山には何かがいる」と恐怖を抱き、そしてついにその正体が明かされます――。

川口先生の感想

これは心臓の強い人向けです。私はこの本を読んだ後、謎の腹痛に襲われました……。

前半、次々と行方不明者が続出する様子は不気味でたまらず、怖いながらもページをめくる手が止められません。そして後半になってようやくこの災厄の主である「あれ」が出てきます。そこからはもうひたすらパニック。**「もうやめて～」**と言いながらも読んでしまいます。人々が自衛隊の出動要請も検討するのですが、今の法律だと自衛隊もこの状況では何もできないそうで、人間にはなす術がありません。昔から「あれ」に関しては似たような事件がたくさんあり、その度に人間は翻弄されてきました。小説なので最後は何とかなりましたが、これが現実に起こったら一体どうしたらいいのだろう、と二重にも三重にも怖い小説でした。